

【表紙】

【提出書類】	四半期報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条の4の7第1項
【提出先】	関東財務局長
【提出日】	平成23年8月5日
【四半期会計期間】	第7期第1四半期（自平成23年4月1日至平成23年6月30日）
【会社名】	アステラス製薬株式会社
【英訳名】	Astellas Pharma Inc.
【代表者の役職氏名】	代表取締役社長 畑中 好彦
【本店の所在の場所】	東京都中央区日本橋本町二丁目3番11号
【電話番号】	03(3244)3271
【事務連絡者氏名】	経理部長 村上 祐一
【最寄りの連絡場所】	東京都中央区日本橋本町二丁目3番11号
【電話番号】	03(3244)3271
【事務連絡者氏名】	経理部長 村上 祐一
【縦覧に供する場所】	アステラス製薬株式会社埼玉支店 （さいたま市大宮区桜木町一丁目7番地5） アステラス製薬株式会社千葉支店 （千葉市美浜区中瀬二丁目6番地1） アステラス製薬株式会社横浜支店 （横浜市西区みなとみらい二丁目2番1号） アステラス製薬株式会社名古屋支店 （名古屋市中区丸の内二丁目1番36号） アステラス製薬株式会社北大阪支店 （大阪市中央区瓦町三丁目6番5号） アステラス製薬株式会社神戸支店 （神戸市中央区磯辺通三丁目1番7号） 株式会社東京証券取引所 （東京都中央区日本橋兜町2番1号） 株式会社大阪証券取引所 （大阪市中央区北浜一丁目8番16号）

第一部【企業情報】

第1【企業の概況】

1【主要な経営指標等の推移】

回次	第6期 第1四半期連結 累計期間	第7期 第1四半期連結 累計期間	第6期
会計期間	自平成22年 4月1日 至平成22年 6月30日	自平成23年 4月1日 至平成23年 6月30日	自平成22年 4月1日 至平成23年 3月31日
売上高(百万円)	237,491	251,617	953,947
経常利益(百万円)	56,936	50,337	115,058
四半期(当期)純利益(百万円)	39,464	25,146	67,650
四半期包括利益又は包括利益 (百万円)	11,470	14,385	24,932
純資産額(百万円)	1,012,173	1,005,546	1,021,096
総資産額(百万円)	1,341,307	1,351,736	1,335,091
1株当たり四半期(当期)純利益 金額(円)	85.45	54.45	146.49
潜在株式調整後1株当たり四半期 (当期)純利益金額(円)	85.38	54.39	146.33
自己資本比率(%)	75.4	74.3	76.4

- (注) 1. 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。
2. 売上高には、消費税等は含まれておりません。
3. 第6期第1四半期連結累計期間の四半期包括利益の算定にあたり、「包括利益の表示に関する会計基準」(企業会計基準第25号 平成22年6月30日)を適用し、遡及処理しております。

2【事業の内容】

当第1四半期連結累計期間において、当社グループ(当社及び当社の関係会社)が営む事業の内容について、重要な変更はありません。また、主要な関係会社の異動もありません。

第2【事業の状況】

1【事業等のリスク】

当第1四半期連結累計期間において新たに発生した事業等のリスク、または、前事業年度の有価証券報告書に記載した事業等のリスクについての重要な変更はありません。

2【経営上の重要な契約等】

当第1四半期連結会計期間において、以下の契約を締結しております。

パーシード セラピューティクス社の持分買取に関する契約

平成23年5月に、米国マキシジェン社の保有する全持分を当社が取得する株式譲渡契約を締結し、パーシード セラピューティクス社は当社の連結子会社となりました。

ロイヤリティ ファーマ ファイナンス トラストとの資産売買契約

平成23年6月に、米国RP マネジメント社が運営する投資ファンドであるロイヤリティ ファーマ ファイナンス トラストと、当社の子会社が保有する2型糖尿病治療に関するDPP-IV阻害剤の知的財産および付随するロイヤリティを譲渡する資産売買契約を締結しました。

また、当第1四半期連結会計期間において、以下の契約について終了しました。

技術導出契約

契約会社名	相手先	国名	技術の種類	対価	契約期間
当社	アボット ラボラトリーズ社	アメリカ	セフジニルに関する技術	一定率のロイヤリティー	2000.1～販売する限り

合併関係

契約会社名	合併会社名及び所在地	相手方の名称	国名	設立の目的	設立年月
当社	パーシード セラピューティクス社（アメリカ）	マキシジェン社	アメリカ	改変CTLA4-Ig融合蛋白（Maxy-4）等の研究・開発	2009.9

3【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

(1) 業績の状況

当第1四半期連結累計期間の業績は以下のとおりとなりました。

[連結経営成績]

平成22年6月に買収したOSI ファーマシューティカルズ、Inc.（以下OSI社）の損益については、前年第2四半期連結累計期間より計上していることから、前年第1四半期連結累計期間には含まれていません。

<売上高>

- ・売上高は2,516億円（対前年同四半期連結累計期間比5.9%増）となりました。
- ・グローバル製品である過活動膀胱治療剤ベシケアが引き続き伸長しました。免疫抑制剤プログラフは、日本及び欧州で好調に推移しましたが、米国における後発医薬品による影響などにより売上が減少しました。また、前立腺肥大症の排尿障害改善剤ハルナールの売上は減少しました。
- ・国内市場においては、主力品並びに新製品の売上が順調に拡大しました。
- ・また、抗がん剤タルセバなどのOSI社関連収入が増収に寄与しました。

(地域別売上の状況)

地域別売上高については売上元会社の所在地を元に集計しております。

日本

- ・日本の売上高は1,393億円（同2.1%増）となりました。このうち、国内市場での売上高は順調に拡大し、1,345億円（同2.4%増）となりました。
- ・プログラフ、ベシケアのほか、入眠剤マイスリー、非ステロイド性消炎・鎮痛剤セレコックス、統合失調症治療剤セロクエルなどが伸長しました。持続性アンジオテンシン受容体拮抗剤ミカルディスは利尿剤との配合剤であるミコンビ及びカルシウム拮抗剤との配合剤であるミカムロと併せ売上を拡大しました。また、平成22年1月に発売した成人気管支喘息治療剤シムピコートなどの新製品が売上拡大に寄与しました。
- ・一方、消化性潰瘍・胃炎治療剤ガスター、ハルナールなどの売上が減少しました。

海外

- ・米州の売上高は482億円（同21.4%増）となりました。なお、現地通貨ベースでの売上高は590百万ドル（同36.7%増）となりました。
- ・ベシケアに加え、心機能検査補助剤レキスキャンが伸長しました。プログラフは後発医薬品による影響を受け減収となりました。
- ・また、タルセバなどのOSI社関連収入が増収に寄与しました。
- ・欧州の売上高は549億円（同5.0%増）となりました。なお、現地通貨ベースでの売上高は467百万ユーロ（同4.6%増）となりました。
- ・ベシケアの売上が拡大したほか、キャンディン系注射用抗真菌剤マイカミン、進行性前立腺がん治療剤エリガードが堅実に推移しました。
- ・プログラフの自社販売の売上高は1日1回製剤アドバグラフの寄与により、伸長しました。なお、プログラフについては、平成21年6月に欧州主要国で物質特許が満了し、複数の国で後発医薬品の発売が確認されています。
- ・ハルナールの自社販売の売上及びバルク・ロイヤリティ収入は減少しました。
- ・アジアの売上高は90億円（同1.6%増）となりました。
- ・ベシケア、マイカミンなどが拡大し、増収となりました。

< 営業利益 >

- ・ 営業利益は488億円（同13.3%減）となりました。
- ・ 売上高の増加により、売上総利益は1,741億円（同3.2%増）となりました。なお、売上原価率は、グループ間取引における未実現利益消去に伴う為替の影響などにより30.8%（同1.8ポイント上昇）となりました。
- ・ 販売費及び一般管理費合計は1,253億円（同11.5%増）となりました。
- ・ このうち研究開発費はOSI社に関わる研究開発費が加わったことなどから435億円（同13.0%増）となり、対売上高研究開発費比率は、17.3%（同1.1ポイント上昇）となりました。
- ・ また、研究開発費を除く販売費及び一般管理費は、OSI社の買収に伴う無形資産の減価償却費及びのれん償却費63億円を当第1四半期連結累計期間に計上したことなどから、817億円（同10.7%増）となりました。

< 経常利益 >

- ・ 経常利益は503億円（同11.6%減）となりました。
- ・ 営業外収益は、前年同四半期連結累計期間に比べ5億円増加し、16億円となりました。営業外費用は前年同四半期連結累計期間に比べ3億円減少し、1億円となりました。

< 四半期純利益 >

- ・ 四半期純利益は251億円（同36.3%減）となりました。
- ・ 特別利益については、投資有価証券売却益21億円を計上したことなどにより27億円となりました。
- ・ 特別損失は、56億円となりました。当第1四半期連結累計期間において、当社の子会社であるプロシディオン社が保有するDPP-IV阻害剤に関する知的財産及び付随するロイヤリティをロイヤリティ ファーマ ファイナンス トラストに売却することで合意したことに伴い、減損損失として34億円を計上しました。このほか、東日本大震災による災害損失8億円を計上しました。
- ・ また、当第1四半期連結累計期間において、海外グループ会社からの配当方針を変更しました。これに伴い、各グループ会社の留保利益に係る繰延税金負債を計上したことから、実効税率が一時的に上昇しました。

[セグメント情報]

当社グループは、医薬品事業の単一セグメントのため、セグメント情報の記載を省略しております。

(2) 研究開発活動

当社グループは、有効な薬剤が存在せず治療満足度の低い疾患領域で、革新的で有用な新薬を継続的かつ早期に創出することにより中長期にわたって持続的な成長を確保することを目指し、研究開発活動を最重点施策として積極的に推進しています。当第1四半期連結累計期間におけるグループ全体の研究開発費の総額は435億円となりました。

第3【提出会社の状況】

1【株式等の状況】

(1)【株式の総数等】

【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	2,000,000,000
計	2,000,000,000

【発行済株式】

種類	第1四半期会計期間末 現在発行数(株) (平成23年6月30日)	提出日現在発行数(株) (平成23年8月5日)	上場金融商品取引所名又は登 録認可金融商品取引業協会名	内容
普通株式	467,964,635	467,964,635	東京証券取引所(市場第一部) 大阪証券取引所(市場第一部)	単元株式数 100株
計	467,964,635	467,964,635	-	-

(2)【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3)【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4)【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

(5)【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式総数 増減数(千株)	発行済株式総数 残高(千株)	資本金 増減額 (百万円)	資本金 残高 (百万円)	資本準備金 増減額 (百万円)	資本準備金 残高 (百万円)
平成23年4月1日~ 平成23年6月30日	-	467,964	-	103,000	-	176,821

(6)【大株主の状況】

当四半期会計期間は第1四半期会計期間であるため、記載事項はありません。

(7) 【議決権の状況】

当第1四半期会計期間末現在の「議決権の状況」については、株主名簿の記載内容が確認できないため、記載することができないことから、直前の基準日（平成23年3月31日）に基づく株主名簿による記載をしております。

【発行済株式】

平成23年6月30日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式	-	-	-
議決権制限株式(自己株式等)	-	-	-
議決権制限株式(その他)	-	-	-
完全議決権株式(自己株式等)	普通株式 6,138,000	-	単元株式数 100株
完全議決権株式(その他)	普通株式 461,173,900	4,611,739	同上
単元未満株式	普通株式 652,735	-	1単元(100株)未満の株式
発行済株式総数	467,964,635	-	-
総株主の議決権	-	4,611,739	-

- (注) 1. 「完全議決権株式(自己株式等)」欄は、全て自社保有の自己株式であります。
 2. 「完全議決権株式(その他)」欄には、証券保管振替機構名義の株式が1,000株(議決権の数10個)含まれております。
 3. 「単元未満株式」欄には、証券保管振替機構名義の株式10株が含まれております。

【自己株式等】

平成23年6月30日現在

所有者の氏名又は名称	所有者の住所	自己名義所有株式数(株)	他人名義所有株式数(株)	所有株式数の合計(株)	発行済株式総数に対する所有株式数の割合(%)
アステラス製薬株式会社	東京都中央区日本橋本町二丁目3番11号	6,138,000	-	6,138,000	1.31
計	-	6,138,000	-	6,138,000	1.31

2 【役員の状況】

該当事項はありません。

第4【経理の状況】

1．四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」（平成19年内閣府令第64号。）に基づいて作成しております。

2．監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、当第1四半期連結会計期間（平成23年4月1日から平成23年6月30日まで）及び当第1四半期連結累計期間（平成23年4月1日から平成23年6月30日まで）に係る四半期連結財務諸表について、新日本有限責任監査法人による四半期レビューを受けております。

1【四半期連結財務諸表】
 (1)【四半期連結貸借対照表】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成23年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (平成23年6月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	142,895	166,017
受取手形及び売掛金	262,512	260,382
有価証券	33,908	46,204
たな卸資産	116,881	115,076
その他	98,352	102,774
貸倒引当金	1,395	1,432
流動資産合計	653,154	689,022
固定資産		
有形固定資産	190,160	191,130
無形固定資産		
のれん	101,255	101,667
特許権	236,736	226,116
その他	29,186	28,083
無形固定資産合計	367,178	355,867
投資その他の資産		
投資有価証券	60,204	58,579
その他	64,438	57,180
貸倒引当金	44	44
投資その他の資産合計	124,598	115,715
固定資産合計	681,936	662,713
資産合計	1,335,091	1,351,736
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	88,601	97,292
未払法人税等	19,813	15,541
引当金	3,500	3,787
その他	127,732	156,942
流動負債合計	239,648	273,563
固定負債		
退職給付引当金	17,235	17,236
その他	57,110	55,389
固定負債合計	74,346	72,626
負債合計	313,994	346,189

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成23年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (平成23年6月30日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	103,000	103,000
資本剰余金	176,821	176,821
利益剰余金	874,351	869,465
自己株式	23,492	23,469
株主資本合計	1,130,682	1,125,819
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	9,479	10,006
為替換算調整勘定	120,587	131,874
その他の包括利益累計額合計	111,107	121,868
新株予約権	1,522	1,595
純資産合計	1,021,096	1,005,546
負債純資産合計	1,335,091	1,351,736

(2) 【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

【四半期連結損益計算書】

【第1四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自平成22年4月1日 至平成22年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年6月30日)
売上高	237,491	251,617
売上原価	68,802	77,485
売上総利益	168,688	174,131
販売費及び一般管理費	112,417	125,330
営業利益	56,270	48,801
営業外収益		
受取利息	335	318
受取配当金	562	516
持分法による投資利益	-	68
為替差益	-	582
その他	214	178
営業外収益合計	1,113	1,665
営業外費用		
持分法による投資損失	136	-
為替差損	176	-
その他	134	129
営業外費用合計	446	129
経常利益	56,936	50,337
特別利益		
固定資産売却益	11	5
投資有価証券売却益	72	2,162
その他	88	561
特別利益合計	172	2,729
特別損失		
固定資産除売却損	227	384
減損損失	-	3,435
災害による損失	-	856
資産除去債務会計基準の適用に伴う影響額	559	-
その他	112	930
特別損失合計	900	5,606
税金等調整前四半期純利益	56,209	47,460
法人税等	16,744	22,314
少数株主損益調整前四半期純利益	39,464	25,146
四半期純利益	39,464	25,146

【四半期連結包括利益計算書】
 【第1四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自平成22年4月1日 至平成22年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年6月30日)
少数株主損益調整前四半期純利益	39,464	25,146
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	2,191	526
為替換算調整勘定	48,744	11,287
その他の包括利益合計	50,935	10,761
四半期包括利益	11,470	14,385
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	11,470	14,385
少数株主に係る四半期包括利益	-	-

【四半期連結財務諸表の作成にあたり適用した特有の会計処理】

	当第1四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年6月30日)
1. 税金費用の計算	税金費用については、当第1四半期連結会計期間を含む連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算しております。

【追加情報】

	当第1四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年6月30日)
(会計上の変更及び誤謬の訂正に関する会計基準等の適用)	
当第1四半期連結会計期間の期首以後に行われる会計上の変更及び過去の誤謬の訂正より、「会計上の変更及び誤謬の訂正に関する会計基準」(企業会計基準第24号平成21年12月4日)及び「会計上の変更及び誤謬の訂正に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第24号平成21年12月4日)を適用しております。	

【注記事項】

(四半期連結貸借対照表関係)

保証債務

連結会社以外の会社の金融機関からの借入に対し、債務保証を行っております。

	前連結会計年度 (平成23年3月31日)		当第1四半期連結会計期間 (平成23年6月30日)
従業員	2,107百万円	従業員	2,047百万円
山之内サノフィ・アベンティス製薬株式会社	56百万円	山之内サノフィ・アベンティス製薬株式会社	134百万円
計	2,164百万円	計	2,182百万円

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

当第1四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書及び前第1四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、第1四半期連結累計期間に係る減価償却費(のれんを除く無形固定資産に係る償却費を含む。)及びのれんの償却額は、次のとおりであります。

	前第1四半期連結累計期間 (自平成22年4月1日 至平成22年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年6月30日)
減価償却費	8,733百万円	14,065百万円
のれんの償却額	1,992百万円	3,026百万円

(株主資本等関係)

前第1四半期連結累計期間(自平成22年4月1日至平成22年6月30日)

配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり配 当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成22年6月23日 定時株主総会	普通株式	30,018	65.00	平成22年3月31日	平成22年6月24日	利益剰余金

当第1四半期連結累計期間(自平成23年4月1日至平成23年6月30日)

配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり配 当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成23年6月20日 定時株主総会	普通株式	30,018	65.00	平成23年3月31日	平成23年6月21日	利益剰余金

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第1四半期連結累計期間(自平成22年4月1日至平成22年6月30日)及び当第1四半期連結累計期間(自平成23年4月1日至平成23年6月30日)

当社グループは、医薬品事業の単一セグメントであるため、記載を省略しております。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益金額及び算定上の基礎、潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前第1四半期連結累計期間 (自平成22年4月1日 至平成22年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年6月30日)
(1) 1株当たり四半期純利益金額	85円45銭	54円45銭
(算定上の基礎)		
四半期純利益金額(百万円)	39,464	25,146
普通株主に帰属しない金額(百万円)	-	-
普通株式に係る四半期純利益金額(百万円)	39,464	25,146
普通株式の期中平均株式数(千株)	461,821	461,830
(2) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額	85円38銭	54円39銭
(算定上の基礎)		
四半期純利益調整額(百万円)	-	-
普通株式増加数(千株)	407	530

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

2【その他】

訴訟

前連結会計年度末からの変動はありません。

第二部【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

平成23年 8月 5日

アステラス製薬株式会社
取締役会 御中

新日本有限責任監査法人

指定有限責任社員 業務執行社員	公認会計士	古川 康信 印
指定有限責任社員 業務執行社員	公認会計士	吉田 敏宏 印
指定有限責任社員 業務執行社員	公認会計士	矢崎 弘直 印
指定有限責任社員 業務執行社員	公認会計士	神前 泰洋 印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられているアステラス製薬株式会社の平成23年4月1日から平成24年3月31日までの連結会計年度の第1四半期連結会計期間（平成23年4月1日から平成23年6月30日まで）及び第1四半期連結累計期間（平成23年4月1日から平成23年6月30日まで）に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書及び注記について四半期レビューを行った。

四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、アステラス製薬株式会社及び連結子会社の平成23年6月30日現在の財政状態及び同日をもって終了する第1四半期連結累計期間の経営成績を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

(注) 1. 上記は、四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社が別途保管しております。

2. 四半期連結財務諸表の範囲にはX B R Lデータ自体は含まれていません。